

公約した政策の実現を求める

二〇一一年度第2回定例会

港区議会第2回定例会が6月15日から24日まで開かれました。4月の区議会選挙後初の議会として、選挙で公約した政策に実施を強く求めました。

日本共産党の代表質問・役割について

- ① 海に近い地域や古川沿いの津波対策等について
- ② 災害時要援護者対象者に対する被害防止について
- ③ 防災無線の整備について
- ④ 高層住宅の防災対策の支援について
- ⑤ 避難所について
- ⑥ 指定管理者の避難所での役割について
- ⑦ 避難所の変更について
- ⑧ 帰宅困難者対策について
- ⑨ 東日本大震災の被災者支援について
- ⑩ 「大地震に備えて」のパンフレットについて
- ⑪ 防災対策に関連して教育の問題について
- ⑫ 防災、福祉関係職員の拡充について
- ⑬ 福島第一原子力発電所の事故に伴う放射能問題への対応について
- ⑭ 青山通りなど、極端に暗い国道の車道、歩道の街路灯の点灯について
- ⑮ 適切な節電に関する関係機関への働きかけについて

- ① 原発推進から撤退への転換を求めることについて
- ② 保育園の待機児解消について
- ③ 特養ホームの待機者をなくすことについて
- ④ 75歳以上の医療費無料化について

東日本大震災をふまえた区の事業に

共産党区議団の提案が反映

港区議会第2回定例会で、一般会計補正予算が可決され、東日本大震災をふまえた区の事業が実施されることになりました。共産党区議団が行ってきた議会質問や区長への申し入れなどが反映されたものとなっています。(詳細は区議団にお問い合わせ下さい)

教育施設等に
折りたたみ式ヘルメット
等の配備

幼稚園、小・中学校、児童館
等一七五施設および「いきいきプラザ」に、折りたたみ式ヘルメットや防災ずきんが配備されることになりました。



折りたたみ式ヘルメット内蔵型

区内で放射能・放射線測定が開始

私たちの申入れや区民の陳情もあり、4月25日から開始している「水道水」に対する放射能測定に加え、6月9日から区内の保育園や公園などの「砂場」と学校の屋外プールの水の放射

能測定が開始されました。また、砂場の検体採取と同時に、簡易型測定器を使って、「大気中」の放射線量を測定します。また、芝浦工業大学(田町キャンパス)における定点測定も始まりました。結果については、港区のホームページでご覧になれます。区民の不安解消のために、引き続き測定場所や回数を増やすなどの改善を求めていきます。



大気放射線量測定の様子 (裏面に続く)

震度7、津波は必ず来ると想定し 防災計画の抜本的な見直しを



災害時における児童の安全を確保するために、公私立保育園(暫定・認証も含む)・

●太陽光発電システム機器の設置費助成拡大

夏季における電力供給量の不足への対応及び地球温暖化対策として、太陽光発電システム機器の設置費助成額が増額されます。

- (補正予算額4,240万円)助成額単価の引き上げ
(個人住宅、共同住宅共用部、事業所共通)
1KWあたり 10万円→20万円

助成限度額の引き上げ

- 個人住宅
30万円→60万円
 - 共同住宅共用部
30万円→200万円
 - 事業所
100万円→200万円
- 尚、この制度は、国や都の助成制度と合わせて利用することができます。

総力を挙げて、息の長い支援・復興活動を

日本共産党は、被災した自治体の党组织と協力して、全国の都道府県党组织が地域を分担して住民の支援・復興に取り組んでいます。

私たち港地区からは、区議団4名全員と4名のボランティアの8名で、5月31日から6月3日まで石巻市に行き、支援活動をしました。現地は、被災してから3カ月近くなるのに、ガシキの山という惨状でした。津波で冷凍倉庫が破壊され、流失した魚や加工品がヘドロと一緒にひどい悪臭を放っていました。日本共産党が提起した「救援・復興に全力を挙げて」との呼びかけのとおり、総力を挙げながら、息の長い支援が求められていることを強く感じました。

炊き出しと支援物資を届けました

私たちの支援活動は、炊き出しと支援物資のお届けです。300人分のカシライスをつくり、2カ所で炊き出

日射調整フィルムの設置費助成も実施されます

窓ガラスに貼ることにより、明るさを確保したままで日差しの熱をカットすることができ、破損防止にも役立ちます。

- 助成単価
1平方メートルあたり
7500円

住宅 75,000円

しをしました。家に入り込んだ泥の搬出も手伝いました。

2カ所とも「美味しい、美味しい」と喜んでくれ、お代わりする人もたくさんいました。

区民のみなさんから寄せられたお米300キロ、募金で購入した新鮮な野菜、全国から届いた日用品などを、閉鎖しているスーパードで配布しました。170人がみえ、わずか1時間間で用意したお米や野菜がなくなりました。「ありがとうございました。助かります」と、何度も頭を下げて帰っていく姿を見て、行政から

区議会議員4名とボランティア4名の8名で被災地支援に



巨大津波によって破壊されたコンクリートの建物の3階屋上に流されてきた乗用車が引っかかっている。

党利党略で権力争いをしていませんか

の支援もなく、依然として物資が行き渡っていない状況がわかりました。

今、政府や政党に求められていることは、地震・津波や原発事故で破壊された被災者一人ひとりの生活基盤を再建するために必要な支援を速やかに、具体的にを行うことに全力を尽くすことです。政権争いをしていく場合ではありません。復興に当たっては、被災者が破壊された生活の基盤を回復し、自分の力で再出発できるような支援すること。復興の進め方は、上から画一的なモデルを押し付けるのではなく、それぞれの地域の実情にそくしたものを国が支援していくことが重要です。

港地区では、7月21日から第2次のボランティア支援隊を送ります。



区民から寄せられた野菜や食料、衣類などの救援物資を被災者に配布